

第19回 悪の封印

今年も秋が来た。例年は夏の終わりの淋しさに弱いのだが、今年は一瞬の安堵感すら覚える。この夏はテロに血塗られた印象が拭えないからだ。秋が来るからといって、テロへの恐怖が終わる訳ではないが、何かをキッカケに終止線を引きたいと思っている無意識の現実逃避かもしれない。

この世の悪は時代と共に形を変える。何かを排除したことにより、新しい悪の芽が噴き出る。不動の、明確な「悪」でない悪にまで意識を張り巡らさなければならぬ時代に生きてみると、ワグナーが26年かけて創り上げた、壮大な「序夜と3日間のための舞台祝典劇《ニーベルングの指環》」が息を吹き返したように心に迫ってくる。オペラに興味のない方でも、ハリウッド映画「ロード・オブ・ザ・リング」はご存知かもしれない。第1作目がNY同時多発テロの年に公開されたのが運命的であるこの映画は3部作の形を取り、「王の帰還」編では「ワグナーに捧ぐ」と書かれている。これらは北歐伝説や、古いゲルマン伝承を元に13世紀初頭に書かれた「ニーベルングの歌」という叙事詩を題材にしており、その原作もフリッツ・ラング監督によって映画化されている。これらの伝説に共通する、欧州の根底にある悪への概念が創作意欲をそそるようだ。

ワグナーの《ニーベルングの指環》に話を戻すと、例えば昨シーズンはバイエルン州立歌劇場で上演され好評を得た。日本の新国立劇場でも、今年から4部作公演の第1年目が始まった。そして来年、海外アーティストにもコアなファンが多いびわ湖ホールで、《ニーベルングの指環》の第1話(序夜)、《ラインの黄金》が上演される。何故ここに焦点を当てるかと言えば、長い間チューリッヒを拠点に活動して来た大御所演出家ミハエル・ハンペが、その演出家人生の集大成として、81歳で初めて挑む《ニーベルングの指環》が日本で実現されるからだ。

ハイデルベルク出身のハンペ氏は、1984年からカラヤンと共にザルツブルグ音楽祭を盛り上げた後、マンハイムやケルン歌劇場、ドレスデン音楽祭の総監督などを歴任している。1975年にチューリッヒ歌劇場で演出した《マノン・レスコー》は特筆に値するという。視覚的に美しく、観客に親切的なハンペ氏の演出には日本でもファンが多く、今までも日本で多くのオペラを演出し、今年、神奈川県民ホール、びわ湖ホール、大分iichiko総合文化センター3館共同で制作された《さまよえるオランダ人》でも好評を博した。

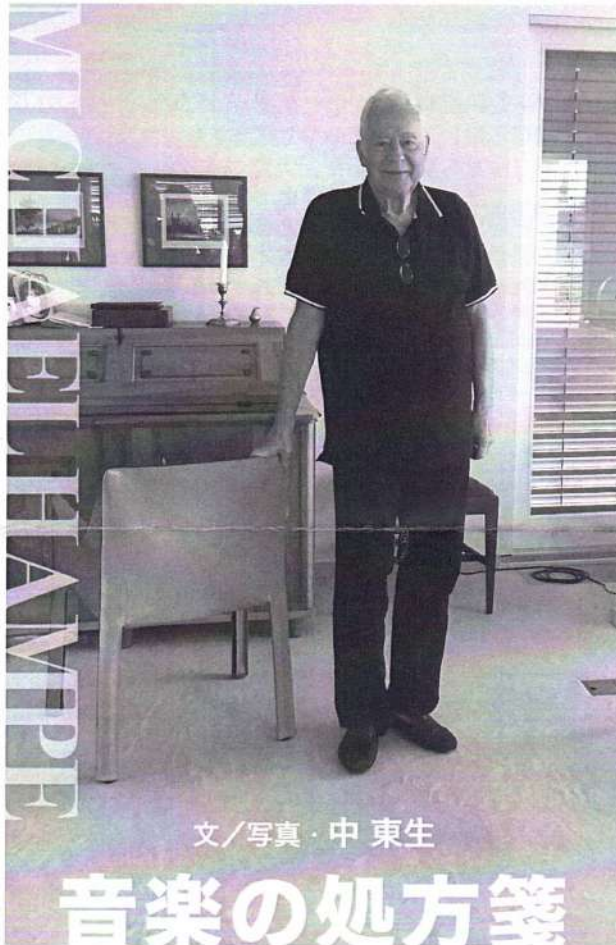
温かい初秋のある日、彼が長年にわたり居を構えているヴィティコンのハンペ邸を訪ねた。町を見下ろせる居間で、「秋になるとこのバルコニーから見える霧の絨毯を、《ラインの黄金》の舞台上で再現したいんだ」と嬉しそうに語るハンペ氏はスイスが大好きなようだ。

《ニーベルングの指環》第1話の《ラインの黄金》では、ラインの乙女達が守る黄金を、彼女達に軽くあしらわれた侮辱の仕返しに、地下に住む小人族のアルペリヒが盗み、指輪を作る。ライン川の川底にあったその黄金が地上に持ち出されたことにより、封印されていた悪が解き放された象徴となることをハンペ氏は何度も強調した。まるで現在のテロ集団の台頭を示唆するかのよう……そして、その背景にスイスの美しい自然を模して、対照を際立たせたいようだ。

舞台美術・衣装を担当するヘニング・フォン・ギーリケは、ドイツの有名な画家である。前述の《さまよえるオランダ人》でも装置・衣装を担当し、ハンペ氏とは「長年の夫婦のようだ」と笑う。舞台装置のアイデアなども、話しながらいとも簡単に、魔法のようにデッサンしてしまうのだ。

息を飲む美しさだ。彼のアトリエをミュンヘンに訪ねたが、丁度美しい自然をプリントした衣装の生地が壁にかけられて、最終決定を待っていた。「僕の画風は、日本のような様式美と細やかな感性の土壌の方が、ドイツでよりも理解してもらえると話す。その日本で、彼らの芸術の集大成となる《ニーベルングの指環》を4年かけて1作ずつ上演し、5年目には4部作連続上演を夢見ているのだという。

最後に、ワグナーは1849年のドレスデン革命で祖国を追われ、チューリッヒに亡命していたことにも触れておきたい。この亡命中に書かれた《ニーベルングの指環》はチューリッヒで生み出された芸術であり、それを今、チューリッヒ在住の演出家が、日本人にも解ってもらえるように、とアイデアを膨らませている。ちなみに、現在のハンペ夫人は日本国籍所持者でもあり、様々な部分で日瑞の運命の糸が結ばれているようだ。



5年連続のびわ湖《ニーベルングの指環》詣でを里帰りの理由の1つに出来る幸運な方は、是非以下の処方箋をお試し下さい。ご都合のつかない方はDVDが出るまで、既存のものをお試し下さい。救いのない悪の世界に時代を超えて共感し、それでも明日に繋げていく力が湧いてくるでしょう。

(写真：WitikonのMichael Hampe氏の自宅にて)

《ニーベルングの指環》第1話《ラインの黄金》

2017年3月4、5日 びわ湖ホール

指揮：沼尻竜典、演出：ミハエル・ハンペ
舞台美術・衣装：ヘニング・フォン・ギーリケ

*人気のある《ニーベルングの指環》DVD

- ドイツグラムフォン ピエール・ブーレーズ指揮
パトリス・シェロー演出、パイロイト祝祭管弦楽団
- ドイツグラムフォン ジェームズ・レヴァイン指揮
オットー・シェンク演出、メトロポリタン歌劇場